

直売所「林檎の森」

所員 山田理圭



いつも直売所「林檎の森」をご利用いただきありがとうございます。

現在店頭にはメロンやスイカが続々入荷されています。お値段も1,000円以下のものがあつたり、とてもリーズナブルな商品となっております。

一方でサクラランボは終売となりました。桃も徐々に出荷され始め、店内では旬のフルーツを買い求めるお客様で大変混雑しております。

また、店内にはたくさんの夏野菜が顔を揃え始めました。キュウリ・ナス・トマトを始めとした地場野菜はもちろん、ジャガイモ、玉ねぎ、人参などの定番野菜が続々入荷されています。

中でも注目が「清水森ナンバ」です。清水森ナンバは津軽初代藩主の「津軽為信公」が京都から持ち帰り、弘前市清水地区やその周辺の農家さんが古くから栽培している唐辛子です。一時は姿を消しそつになりましたが、研究会などが発足し、徐々に生産量が増えて

います。栄養価も高く夏バテ予防に一役買いそうな、風味優れた弘前在来の貴重な唐辛子を一度ご賞味ください。

また8月中旬からは、毎年大人気の嶽きみが入荷しております。ぜひ店頭で買い求めの上、この時期だけの味覚をお楽しみ下さい。

そして、会員の皆様にも願ひがあります。

新鮮な野菜、果物などを出荷してくださり大変助かっておりますが、野菜や果物が店頭になくなる、鮮度も低下してしまうので、新しい野菜・果物を出荷する際に古いモノを引き下げる事を徹底し、加工品・漬物などは賞味期限の確認をお願い致します。

売り場にも限りがございますので、こまめに確認して頂きたいと思ひます。

スタッフ一同、みなさまのご来店をお待ちしております。



瑞々しいナスも大人気！



この土地ならではの『清水森ナンバ』



枝豆やピーマン、新鮮な夏野菜たち！



売場に幸せな香りが漂います



旬の味覚、桃もおいしいですよ

青年部通信

事務局 佐々木 善久



青年部では、7月7日の第58回通常総会を開催し、部員30名が参加しました。今年は、3年ぶりの来賓を招いての開催となり、県青年部協議会をはじめJAつがる弘前、JA津軽みらいの青年部部长を迎えました。

議事では議案全て可決されたほか、今年度の役員改選に伴い、新役員が紹介されました。新部長には桐ノ木沢地区の福田耕正さんが就任し「前部長より任された期待を裏切らないように責任をもって臨みたい。また、皆さんの協力を



勇退する部員の澤田氏（左）と宮川氏（右）

得ながら青年部一丸となって、地域農業の発展に繋がる活動を行っていきたいと思います」と力強く決意を述べました。今回の総会を機に勇退する部長からは、入部してから学んだことの紹介と共に、これからの青年部活動を激励する話がありました。中でも、青年部活動を通して先輩から怒られて学んだことが多くあるそうです。団結力の強い相馬青年部は、代々先輩から受け継いできた「自分一人だけが良いという考えはまね」という教えが印象深く、今も尚、青年部の団結力に生きているのだと感じました。

7月19日には、県内JA青年部合同研修が3年ぶりに開催され、当JA役員6名が参加しました。今年は、和歌山県よりJAありだ青年部も加えた合同研修でした。内容は、JAつがる弘前管内における「高密度植わい化栽培視察」・「りんご選果場の視察見学」です。和歌山県は、みかんの生産が盛んで

あり、りんご高密度栽培をみて、みかんにも取り入れることが出来ないかと、ひときわ真剣に聞き入っ



和歌山県の青年部を交え高密度植わい化栽培について学ぶ

ていました。当JA青年部員は、他地域の青年部と時折話し、交流をしていました。



りんご選果場視察見学で、管内JAとの違いを学ぶ青年部員

新役員紹介



(右から)

部 長	福 田 耕 正	(桐ノ沢)
副部長	溝 江 翼	(湯 口)
〃	大 場 隼 人	(紙漉沢)
会 計	今 大 介	(昂)
役 員	林 崎 樹	(藤 沢)
監 事	福 島 秀 幸	(藤 沢)
〃	三 浦 剛	(五 所)

いきいき女性部通信

事務局 石田 有希子



女性部では7月7日、相馬小学校3年生のリング栽培学習袋掛け編が行われ、児童16名含む25名が集まりました。

袋掛けは大変コツが必要な作業。「右側に入っているハリガネをしつかり折るんだよ」と話しながら、園主の山内牧さんと農業振興課の齊藤主任が折りたたみ方を教える

と、児童らは次々と袋をかけていきました。
最後の質問タイムには「虫が袋を破いたらどうするのか」「なぜ袋は二重なのか」など様々な質問があがり、山内さんは「色を赤くいい色にするため、硬く長持ちさせるため、虫を防ぐために袋をかける」と言い、昔は新聞紙を利用した一重の袋で虫を防ぐために使い始めたのだとも教えてくれました。現在も一重の『いっぽう袋』と、『二重袋』があり「袋はぎは、果実を日焼けから守るために、時間や天気気に気を付けることが必要。自分の畑の作業労働力を考えなが



「飛ばないように
かけられたかな?」



女性部員の優しい指導にやる気満々!



山内さんに袋かけを教わる孫の瀧真くん

らどんな袋を選ぶのかを決める」という話を、児童らはメモをとって聞いていました。

今回は葉取り作業の予定です。

また7月21日、夏期研修を開催し、部員19名が参加しました。今年は六ヶ所村にある日本原燃株式会社の施設見学です。

日本原燃は、企業援農ボランティアで毎年相馬管内の園地にも来ている企業でもあります。

六ヶ所村に入ると、風力発電の大きな風車、広大な敷地に広がるソーラーパネル、原油備蓄のための円柱型のタンクが複数あるなど「さすがエネルギーの村!」とみなさん感心していました。

施設内は誰でも入れるPRセンターと、その奥は、厳重な警備体制が。さながら空港のようなボディチェックが行われました。社員の方々は、その他に静脈認証があるなど、危険物の持ち出しがないよう、管理がとても徹底されていました。内容はかなり難しかったですが、原子力発電に使った、使用済核燃料のウランとプルトニウムを適切に処理したり、再利用できる部分を抽出したりしているそうです。

日本原燃の社員は約3,000人で、工事などで他の会社から来ている人を含めると全部で8,000人になるようです。相馬地区の人口は現在3,100人程度だと考えると、日本原燃の大きさに驚きました。

お昼はろっかぽっかというスパ施設内のレストランでランチをし、六ヶ所名物の長芋焼酎工場や産直の六ヶ所館でお買い物をしました。

次回は、8月2日相馬ねぶた運行前の食事作り、4日JA夏祭り販売するマフィン作り、5日JA夏祭り出店と立て続けに活動があります。地域のみなさんに楽しんでもらえるよう、女性部一丸となって取り組んで参ります。



今年の夏期研修、楽しく学びました